

## トドマツノキバチ

針葉樹の丸太や衰弱木に直径7～8mmの円い穴が開く。穴から木くずはほとんどでない。この虫は幼虫が材内を食べるが、幼虫のいる木を外見から判定することは難しい。成虫になると円い穴を開けて外に出るので、食害に気づく。

成虫は体長20～40mmの細長い蜂である。体は黄色で黒い縞模様がある。春から夏に日中、丸太の樹皮上にみられる。

【学名】 *Xoanon matsumurae*

【分類】 ハチ目 (Hymenoptera) , ハバチ亜目 (Symphyta) , ハバチ科 (Siricidae)

【分布】 北海道, 本州, 四国; サハリン, シベリア。

### 【特徴】

針葉樹には数種のキバチが寄生する。食べ痕から種を区別するのは難しいようである。

丸太に直径5～10mmの円い穴を開ける昆虫として他にオオゾウムシがあるが、穴から大量の木くずが出る点で区別できる。

### 【生態】

宿主：トドマツ, エゾマツ, カラマツなど。

2～3年で1世代といわれている。成虫は5～8月に出現する。成虫は樹皮表面から細長い産卵管を差し込み材内に産卵する。

幼虫は材を食べて成長し、材内で蛹になり、羽化した成虫は穴を開けて外に出る。

### 【被害と防除】

幼虫が材内を食べるため、材の品質を低下させる。また、新築住宅の柱や板から成虫が出てきて問題にされた例もある。

被害を防ぐには十分な製品検査や熱処理などの殺虫処理が必要とされる。

なお、成虫は蜂だが人を刺すことはない。また、樹皮のない木には産卵しないので、家屋内で増殖することはない。

### 【文献】

1985. 農林水産省林業試験場北海道支場保護部. 北海道樹木病虫害獣図鑑. 223 pp. 北方林業会, 札幌. (生態, 被害, カラー写真).

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トドマツノキバチ habachi/todomatu/  
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/1/4.